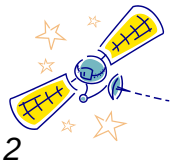
成瀬が丘 防災つうしん



No.2

平成２６年１２月６日
成瀬が丘自治会自主防災部

●中越地震から 10 年　阪神淡路大地震から 20 年

2004 年 10 月 23 日午後 5 時 56 分 新潟県を襲った**中越地震**(M6.8、震度 7)から 10 年が経ちました。1995 年 1 月 17 日午前 5 時 46 分 阪神地区を襲った**阪神淡路大震災**(M7.2、震度 7)から 20 年の時が過ぎようとしています。ここで改めて二つの震災から首都直下地震が差し迫っている成瀬が丘の住民が参考にしたい事例を紹介したいと思います。

岡庭自治会長が町田市町内会・自治会連合会長研修会に参加した際(10 月広報既報)、おぢや震災ミュージアム「そなえ館」にて**新潟中越地震**の研修を受けました。その中で実際の被災者から「被災当日は余震が激しく家の中に居られないので、道路や空き地で近所の人同士が肩寄せ合って一晩を過ごし、翌日からは避難施設が倒壊したため自分達の手で仮設の避難所を作り毛布や食料を持ち寄って数日間励まし合った」との話を聞いてきました。その被災者の方は、自分の経験をもとに自助・共助の大切さを繰り返し訴えていたそうです。

●「地域防災学習交流会」を開催しました

8 月 27 日に H26 年度「地域防災学習交流会」を開催しました。(9 月広報既報)『首都直下地震の備えと地域防災力の向上』というテーマで、**阪神淡路大震災**を例に講義がありました。その中から次のことを紹介します。

① 犠牲者の死因で、**建物が原因**となった方は全犠牲者の **83.3%**に及んだとのこと。
このことは、自宅の耐震化及び家具の固定化等の自助努力の大切さを表しています。(裏面表 1 参照)

② 生き埋めや閉じ込められた時の脱出・救助方法で、**救助隊に助けられたのは 1.7%**。
このことは、震災直後の公助は難しく、自助・共助の努力が救助につながっていることを表しています。(裏面表 2 参照)

③ 阪神淡路大震災における年齢別死亡者数をみると、高齢者の数が多いのは仕方ないところですが、**20～24 歳**の区分が前後の区分より **50%以上多く**なっています。
これは、近所付き合いの少ない一人暮らしの若者が多かったとの分析結果ですが、このことは、体力のある若者にとっても、いわんや中高年にとっては近所付き合いが災害時にわが身を助けることにつながることを示唆しています。(裏面表 3 参照)

●「H26 年度自主防災訓練」を実施しました

10 月 19 日の成瀬が丘自主防災訓練は、総勢 200 名を超す人々で真剣に行われました。参加することによって、一人でも多くの顔見知りやお互いに挨拶ができる人を増やすことが、成瀬が丘自治会の**防災力を高める**ことにつながります。

※今後も自治会の行事に参加し、個人個人の防災力を高めるよう努めましょう！